

病院長角南典生からのメッセージ



20年前より松山看護学校で、19年前より聖カタリナ衛生看護科で講義をさせていただいています。眼を輝かせてわたしの講義を一生懸命聴いてくださる学生さん。眠くて眠くてあくびをしながら聴いてくださる学生さん。満点で試験合格した学生さん。追試でなんとか卒業し、やっとのことで国家試験に無事合格した学生さん。いろいろな看護学生さんと楽しいひとときを持ちました。

看護師になって救急病院や循環器内科や脳神経外科で急変する患者さんに一瞬一刻を戦ってきた看護師さん。寝る間も惜しんで働き、勉強し、燃え尽き症候群かなと感じている看護師さん。いろいろな看護師さんと話しあえる貴重な時間も多くありました。

今までとは違った環境の病院で働きたいと考えている看護師さんにぜひ1度見学に来ていただきたいと思います。大切なのは、思いやり。患者さんへの思いやり、仲間に対する思いやりのある方、お待ちしております。

病院師長渡部千秋からのメッセージ



はじめまして。

私は、回復期リハビリテーション病棟 57 床・療養病棟 57 床、外来診療を統括している病院師長の渡部です。

私の役割は、「福角病院に入院して良かった」と言って頂けるようご家族を含め、患者様への心のこもった丁寧な看護・介護サービスの提供ができるスタッフの育成。また、看護・介護スタッフが「福角病院でずっと働きたい」と思えるよう、やりがいのある職場環境作りであると思っております。

現在は、病棟師長と共に職務満足があつてこそその顧客満足であることを再確認し、時間外勤務削減に向けた業務改善からプライベート時間の充実を図ること、互いを尊重し承認

の言葉かけなどを行い、職員間の調和を図ることを重点項目として職場環境の整備に努めております。

病棟師長からのメッセージ



回復期病棟師長の平塚真由美と療養病棟看護師長の長谷川です

回復期病棟は、急性期での治療を終え在宅復帰に向けて、患者さんの安全を確保しつつリハビリを中心にした生活支援を行っている病棟です。多職種と連携をとりながら、患者さん個々の目標を共有して、患者さんやご家族の意思決定を尊重した看護ケアを実施しています。

患者さんやご家族が安心して入院生活が送れるように、個々の患者さんの気持ちや思いに寄り添った看護ができるように日々努めています。

また、患者さんやご家族が「こんな看護師にケアされたい」と思えるスタッフの育成に尽力していきたいと思えます。

療養病棟は、主に医療度や介護度の高く、在宅復帰までに時間を要する患者さんや終末期を迎えられた患者さんが入院されています。

患者さんが、地域社会での生活を可能にするための看護・介護サービスの提供、地域で生活するための社会資源の活用等、社会福祉士をはじめ他職種と共に関わっています。また、終末期を迎えられた患者さんやご家族には、身体のみならず、心の痛みにも寄り添い、「福角病院で最後を迎えることができ良かった」と言って頂ける看護を目指しております。

スタッフから一言



当院就職3年目、子育て真っ只中の看護師です

当病院には院内保育園が整備されており、現在は保育園を利用しながら日勤のみの勤務をしています。急な子供の発熱などで勤務調整をお願いすることもあります。師長さんはじめ、周囲のスタッフの理解と協力が得られ、家庭と仕事の両立ができる職場だと感じています。

家庭との両立のため急性期病院から就職した看護師です

急性期病院では、疾患の理解と治療に伴う看護を短期間の在院日数内に行う必要があり、患者さんの話をゆっくりと聞くことへの困難感に戸惑いを感じると同時に、急性期病院での治療を終えた患者さんの今後の「生活」に関心を持っておりました。

回復期リハビリテーション病棟では、入院当初から在宅へ繋ぐための段階を追った看護計画を立案し、スタッフ一丸となって実践しています。発症前の状態に戻ることは困難であっても、患者さんやそのご家族の思いを受け止め、在宅での生活に繋がられるよう多職種とのカンファレンスを行い、患者さんやご家族の希望に添ったかたちで、患者さんの回復過程を認識することができ、とても看護のやりがいを感じます。

回復期リハビリテーション病棟協会認で「回復期リハ看護師」に認定された看護師です

当院で、患者さんと関わる中で、回復期リハビリ看護の知識や技術をさらに習得したいと考え、回復期リハ看護師の認定を受けました。スタッフと共に学習を積み重ねて、回復期リハビリ看護に活かせるように努めています。

超高齢化社会に伴い、認知症の患者さんが多く、関わりの難しさやリハビリが思うように進まないジレンマもありますが、家族の支援状況や退院後の生活を見据え、安心した生活が送れるように日々看護をしています。

急性期病院での勤務経験をもつ看護師です

患者個々に合った、個別性を持った看護を心掛けています。立案した看護計画に基づき、スタッフ全体で実践することに力を注いでいますが、師長からの支援やスタッフも協力的であると感じます。急性期病院では関わる時間が足りないと思うことが多々ありましたが、当病棟では、患者さん一人ひとりに丁寧に関わりコミュニケーションもしっかり取れ、在宅までの回復過程の中で患者さんと共に喜びを分かち合えることにやりがいを感じています。